



「水辺の景観・歴史・文化」を再考する 住民参加型ワークショップ成果報告

区分：B-3

テーマ：歴史と文化、景観の魅力を活かすまちづくり

立命館大学都市地域デザイン研究室

協力

老上西まちづくりセンター

UDCBK（アーバンデザインセンターびわこ草津）

NPO法人琵琶湖ネット草津

目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. ワークショップの内容について | 3 |
| (1) 本ワークショップの目的 | |
| (2) 実施概要 | |
| 2. ワークショップ結果 | 6 |
| (1) WS①結果 | |
| (2) WS②結果 | |
| (3) WS③結果 | |
| (4) KJ法 | |
| (5) 考察 | |
| 3. ワークショップまとめ | 16 |
| (1) 本WSの成果 | |
| (2) 今後の課題 | |



1. ワークショップの内容について

(1) 本ワークショップの目的

本ワークショップの対象地域である矢橋は、「急がば回れ」のルーツとなる近江八景であり、水辺の景観と歴史の関りが深い地域である。その一方で、まだこの地域は地域魅力の創出ができていない観光の目玉になれるような景観的な魅力はともかく、地域の住民からも水辺の利用や「水辺に親しむ生活風景」がなくなりつつある。近江八景といった潜在的な資源を活かした地域の魅力創出に向けた第一歩として、

①都市化の中で失われた **「水辺に暮らす歴史文化の再考」**

②新しい未来に向けて **「継承したいものを明らかにすること」**

を地域住民と検討することを本ワークショップの目的とする。

1. ワークショップの内容について

(2) ワークショップ実施概要

- a. 実施主体 立命館大学都市地域デザイン研究室（金度源研究室）
- b. 実施日時 2023/2/13、13:00～15:00
- c. 実施場所 NPO法人琵琶湖ネット草津事務局
- d. 実施内容（2グループで実施）
 - ・WS①：景観・歴史・文化の再考ワークショップ
 - ・WS②：歴史の現状評価ワークショップ
 - ・WS③：保全・活用方法検討ワークショップ



1. ワークショップの内容について

WS①：「歴史共有ワークショップ」

- ・参加者に持参していただいた景観や歴史、文化が残っている資料や写真を共有する。
- ・共有していただいた資料や写真が老上西地域のどこに当てはまるかを、地図を使って共有する。

WS②：「歴史分析ワークショップ」

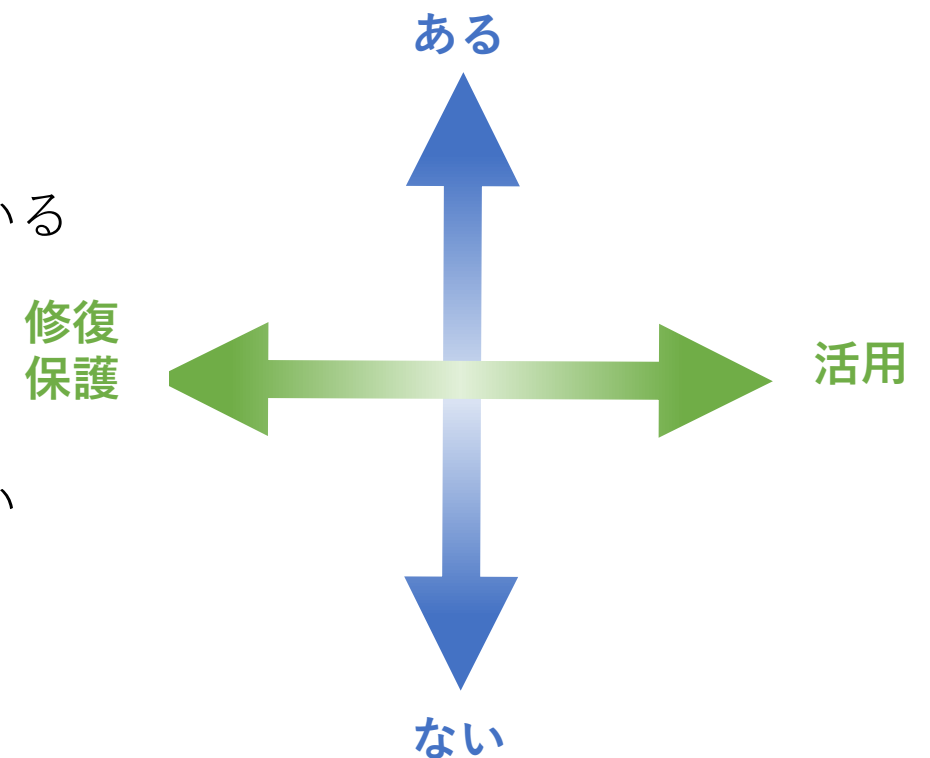
- ・WS①で確認できた景観・歴史・文化を右図の軸で分類する。

縦軸・・・ある：現物が残っている、受け継がれ現在も続いている

ない：現物が残っていない、受け継がれていない

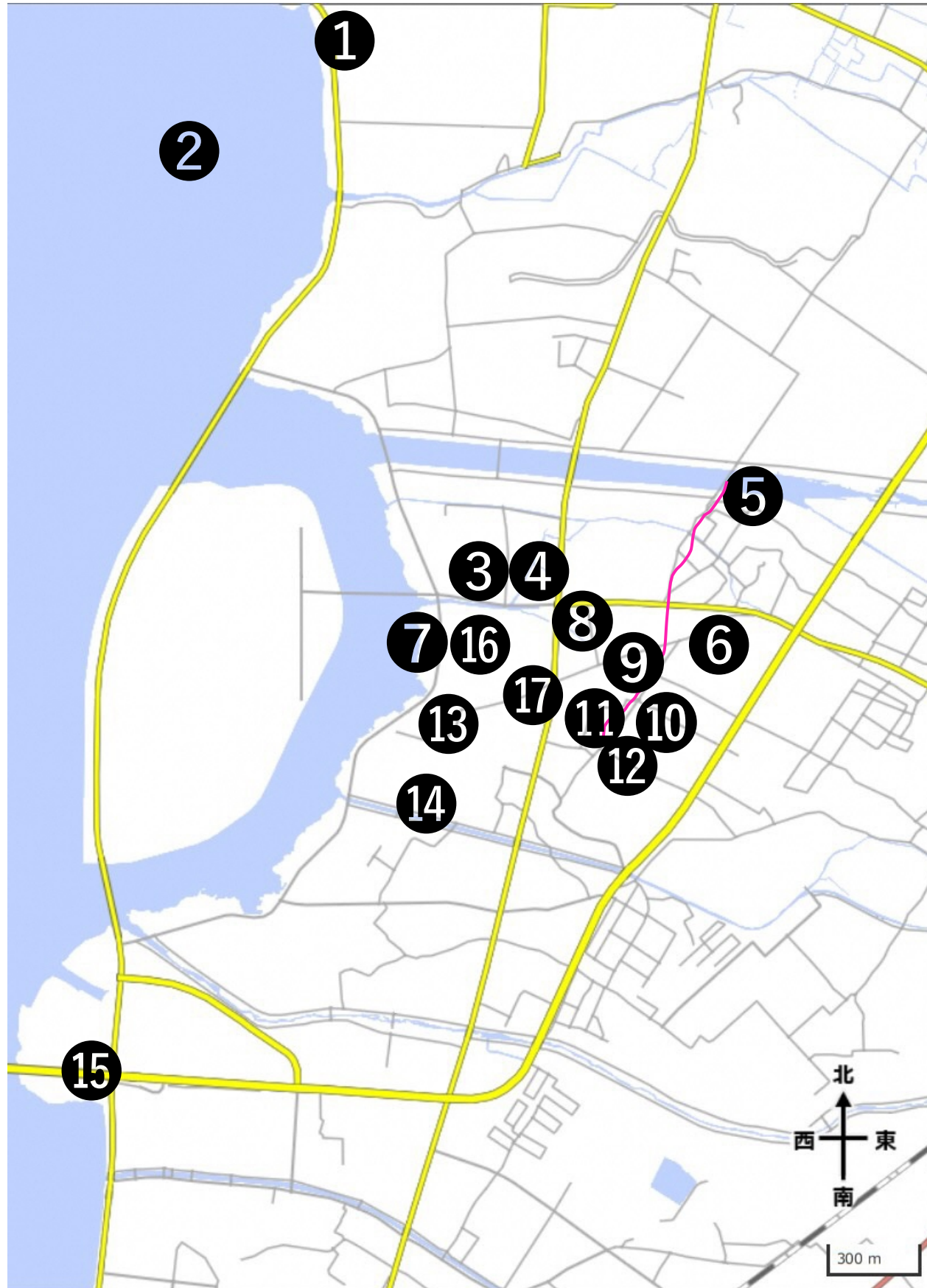
横軸・・・活用：現状に手を加えてより現代風に活用したい

修復・保護：昔の姿、元の形に戻したい、保護したい



WS③：「保全・活用検討ワークショップ」

- ・WS②を踏まえ、一番残したい景観・歴史・文化を決める。
- ・保全、活用に向けて具体的な方法や現状の課題について話し合う。



2. ワークショップ結果

WS①：「歴史共有ワークショップ」
の結果（A班）

歴史

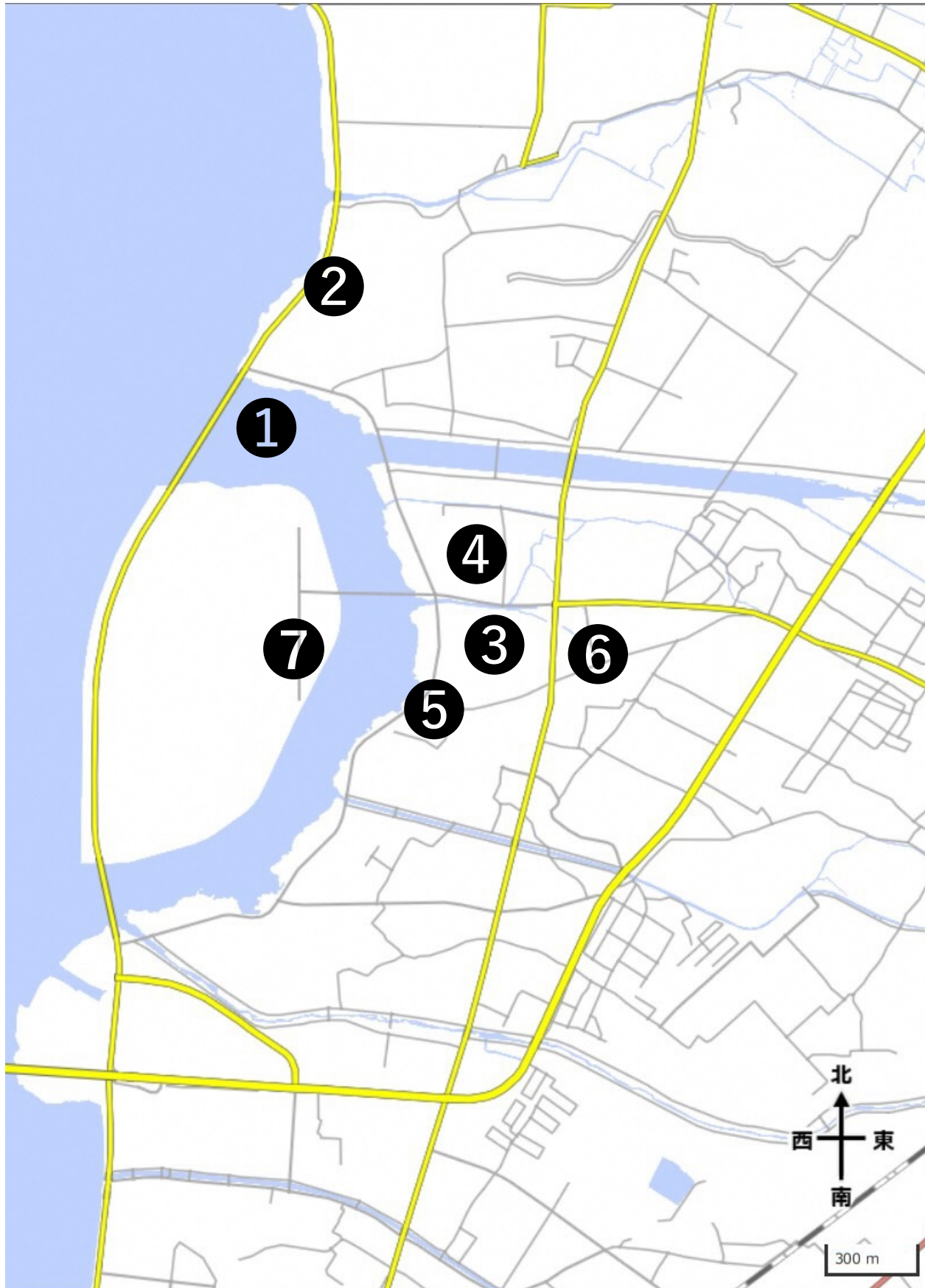
- ① 9軒の旅館
- ② 32隻の船(一齐に出航)
- ③ 梅川の墓・清浄寺
- ④ 十王堂跡
- ⑤ 芦浦街道(芦浦観音～大江)
- ⑥ 矢橋街道(武将がかつて通過)
- ⑦ 船代官屋敷・米運搬(17代)
- ⑧ 地藏堂
- ⑨ 石碑
- ⑩ 鞭崎神社・万葉集
- ⑪ 石津寺
- ⑫ 矢橋家の墓
- ⑬ 灯籠(かつて異なる場所にあった)
- ⑭ はたげん、佐野さん、力士の墓
- ⑮ 矢橋代官所
- ⑯ 正高寺
- ⑰ 一色稻荷神社

2. ワークショップ結果

WS①：「歴史共有ワークショップ」
の結果（A班）

景色・文化

- ① 近江八景(船代官・屋敷・帰帆)がきれいだった
- ② 開墾のため
- ③ 墓地と寺が多い
- ④ 石垣だけは残したい
- ⑤ 洗濯・魚釣り・プール・浅瀬、突堤
- ⑥ 船にまつわる文化
- ⑦ 土俵

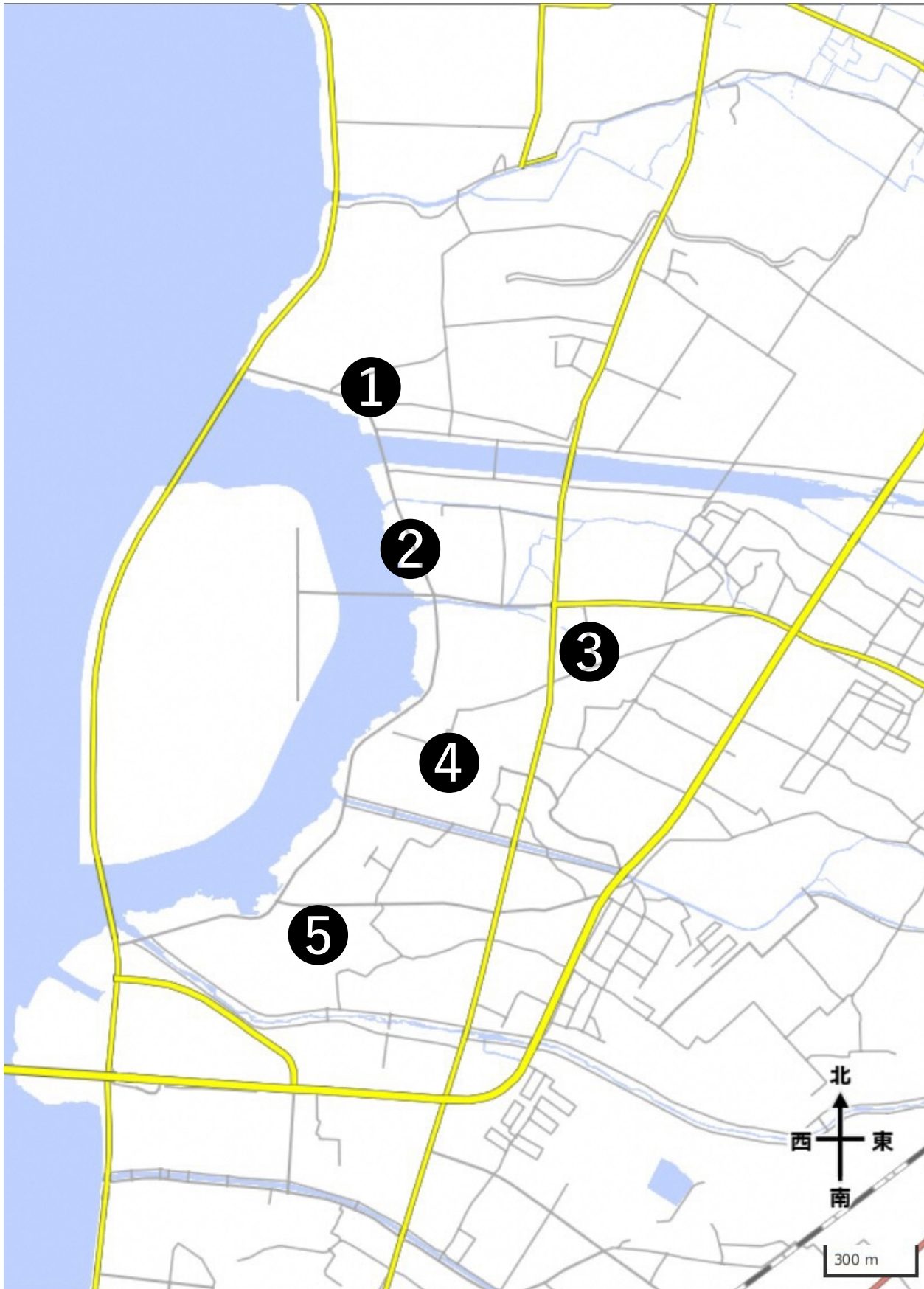


2. ワークショップ結果

WS①：「歴史共有ワークショップ」
の結果（B班）

歴史

- ① 田園と比叡山の原風景
- ② 米ぬかを餌として瓶付けで魚を捕る
- ③ 矢橋城
- ④ 石津寺（池、弁天様）
- ⑤ 温泉プール、飛び込み台がある

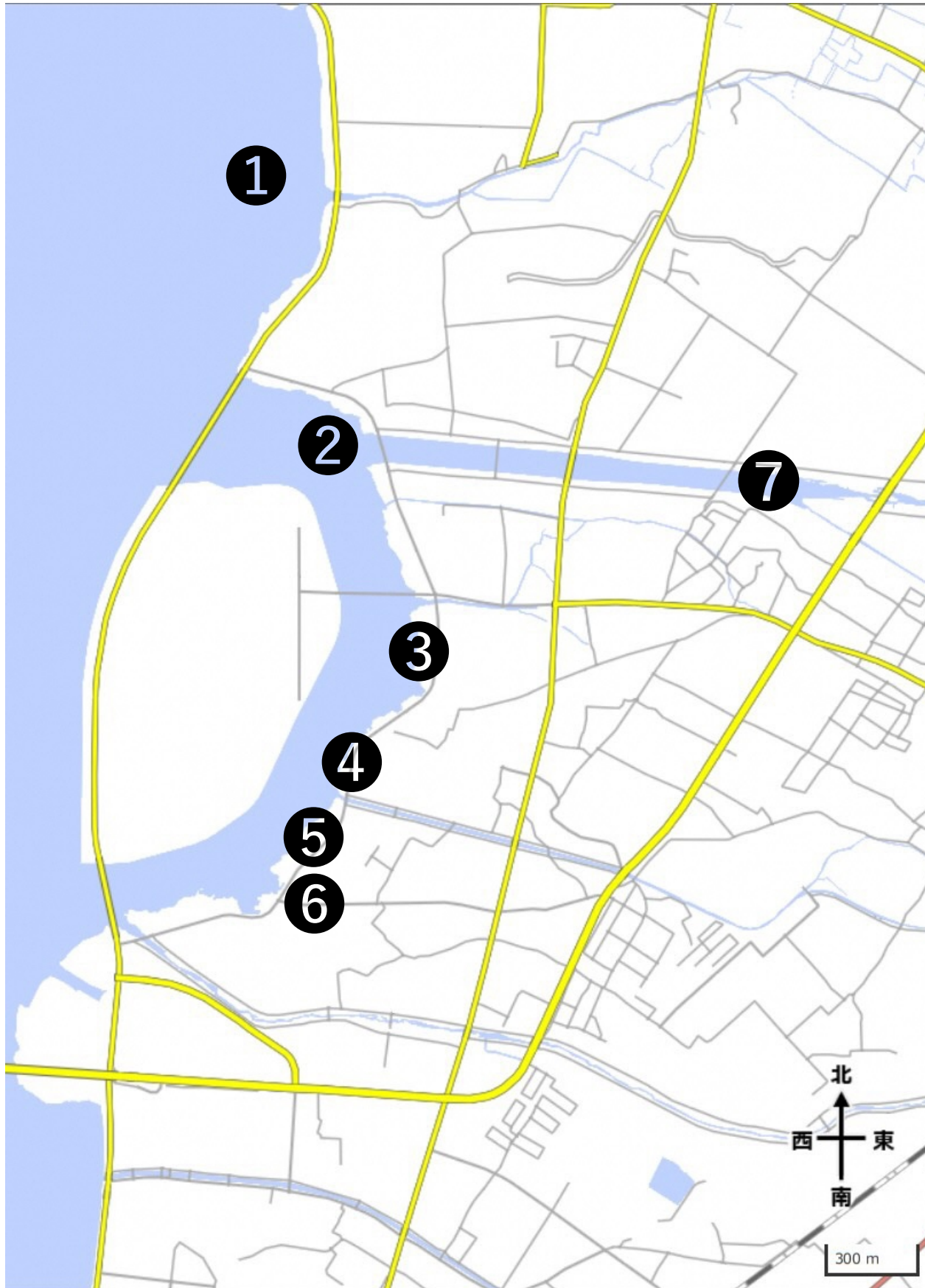


2. ワークショップ結果

WS①：「歴史共有ワークショップ」
の結果（B班）

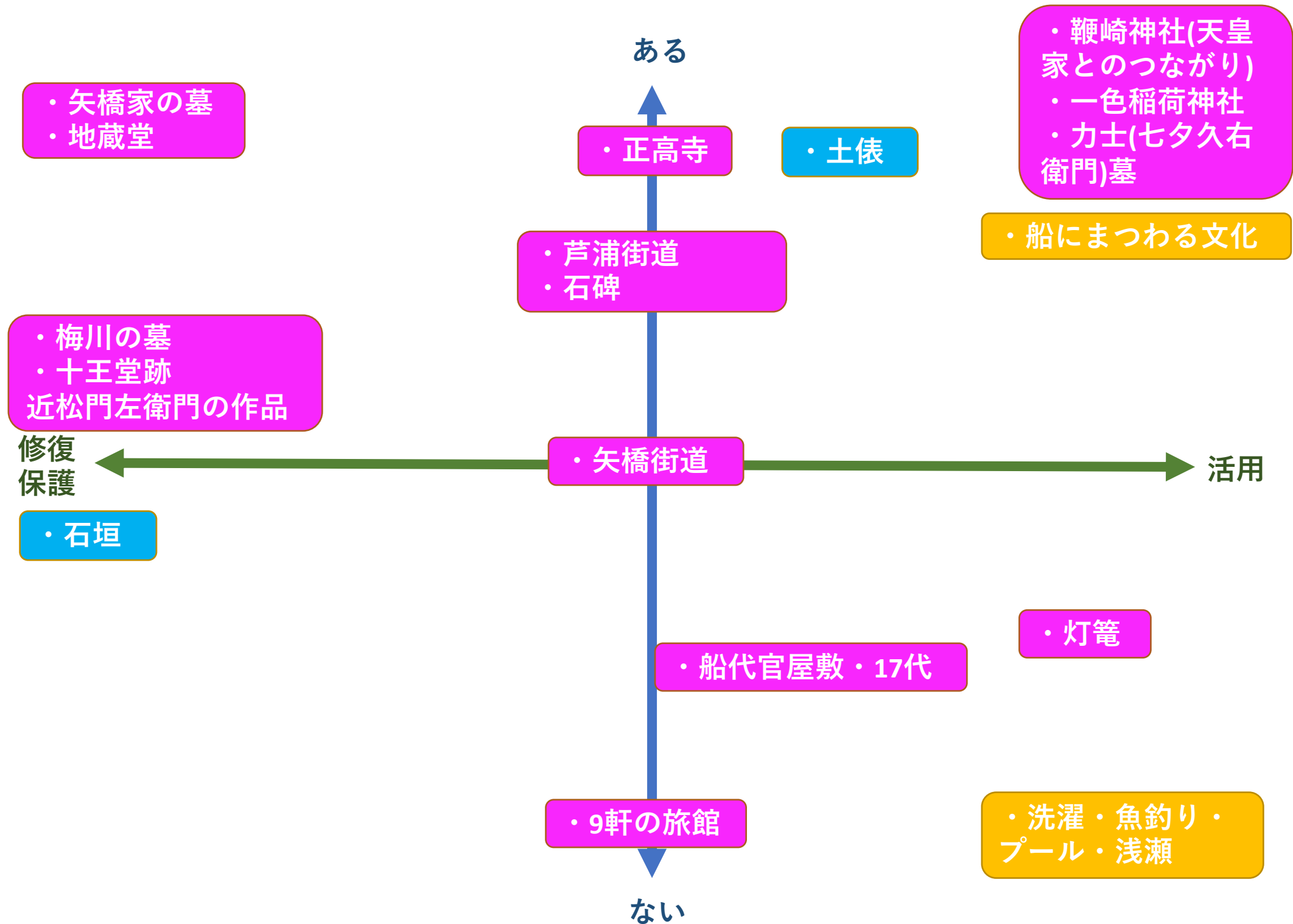
景色

- ① 空の様子
- ② 綺麗な水だった
- ③ 対岸の比叡山の稜線が見えた
- ④ ヨシ浜
- ⑤ 埋め立てがされて湖の景観が変化
- ⑥ 近江八景八橋の浜
- ⑦ ライオンズクラブの桜の木



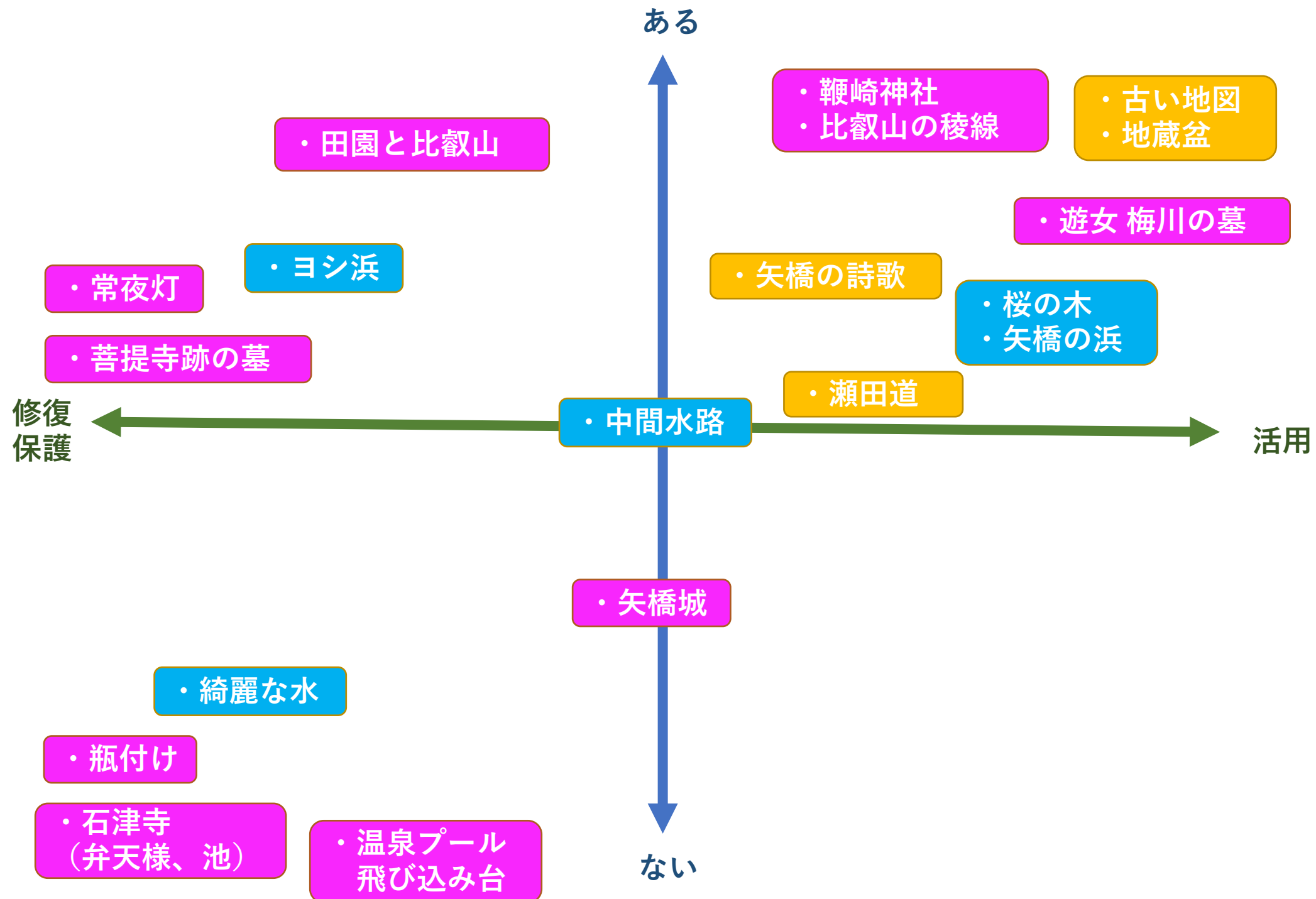
2. ワークショップ結果

WS②：「歴史分析ワークショップ」の結果（A班）



2. ワークショップ結果

WS②：「歴史分析ワークショップ」の結果（B班）



2. ワークショップ結果

WS③：「保全・活用検討ワークショップ」の結果（A班）

残したいもの：「船まつわる文化」

理由

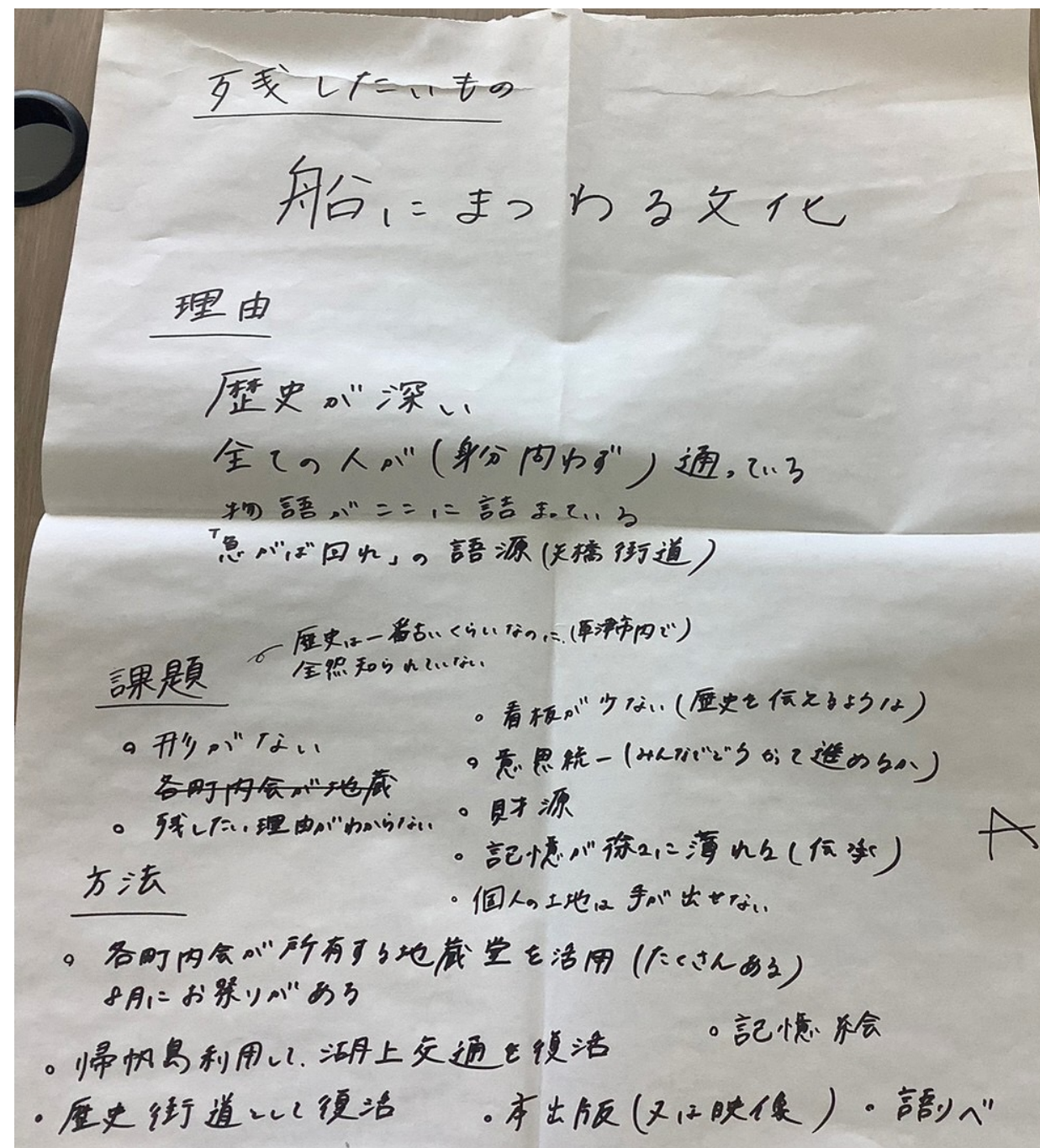
- ・歴史が深い
- ・すべての人が（船を問わず）通っている
- ・物語がここに詰まっている
- ・「急がば回れ」の語源（矢橋街道）

課題

- ・形がない
- ・意思統一（歴史の扱い方について）
- ・残したい理由がわからない
- ・歴史を伝えるような看板が少ない
- ・記憶が徐々に薄れている
- ・財源
- ・個人の土地には手が出せない

方法

- ・各町内会が所有する地蔵堂を活用
- ・帰帆島を利用し、湖上交通を復活させる
- ・歴史街道して復活
- ・本を出版（または映像）
- ・語りべ



2. ワークショップ結果

WS③：「保全・活用検討ワークショップ」の結果（B班）

残したいもの：「矢橋道と水辺の景観」

理由

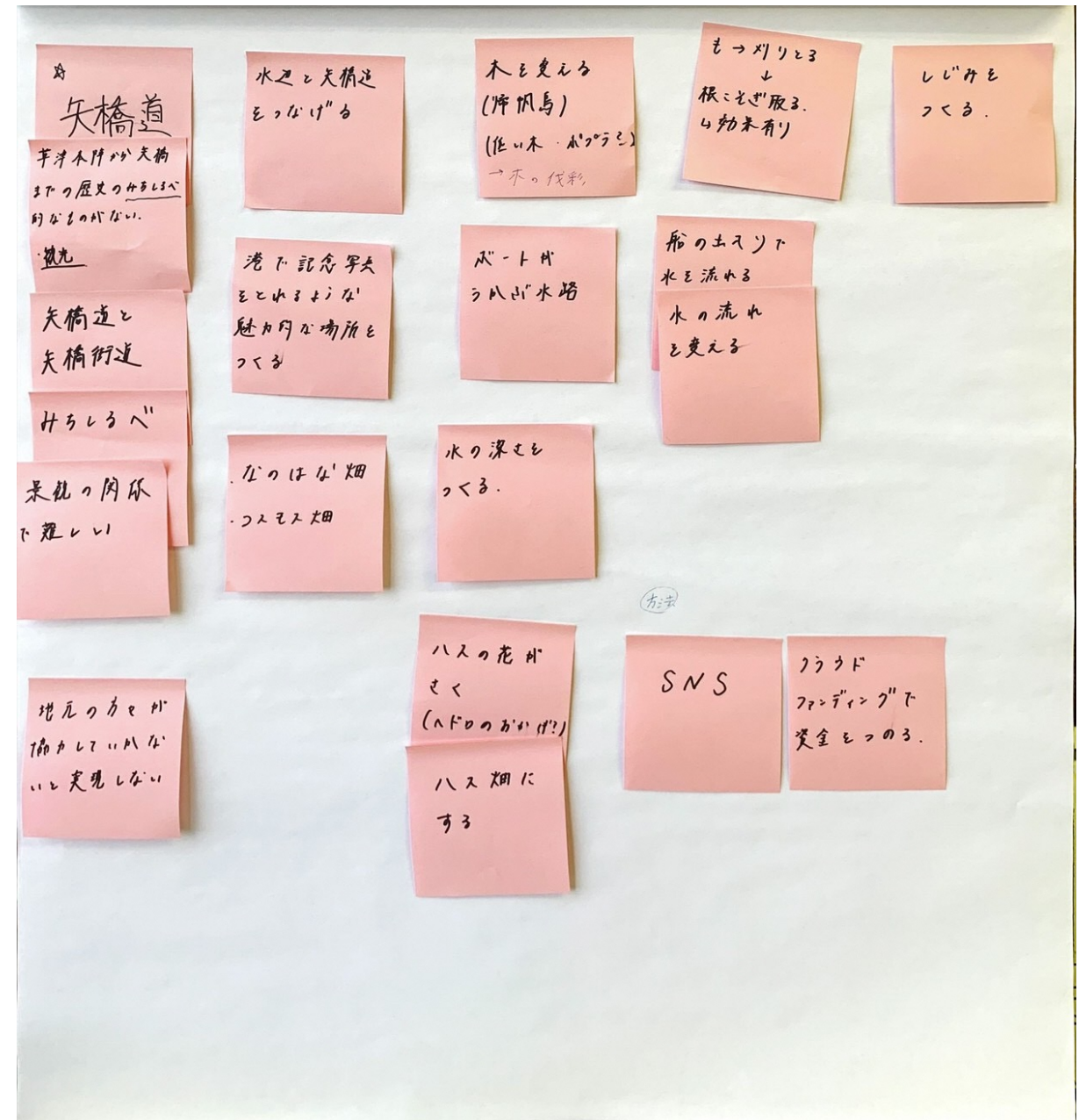
- ・ 矢橋道の中に歴史や文化が点在している
- ・ 水辺の景観も矢橋道の一つ

課題

- ・ 帰帆島の背の高い木で景色が見えない
- ・ 水の流れがなく水質が悪い
- ・ 水面に藻が張っている
- ・ 土地の所有権の関係上、地元の人との協力が必要

方法

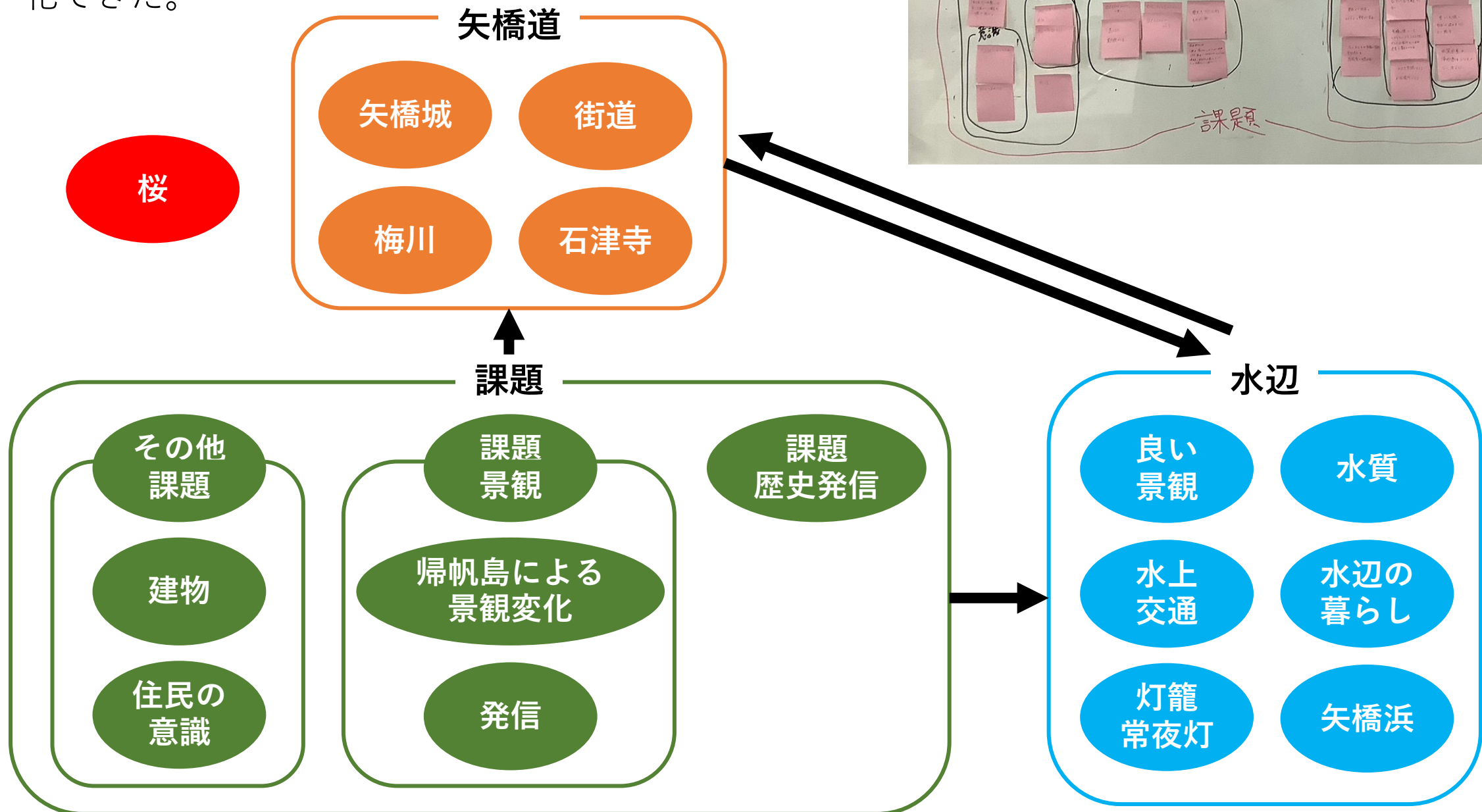
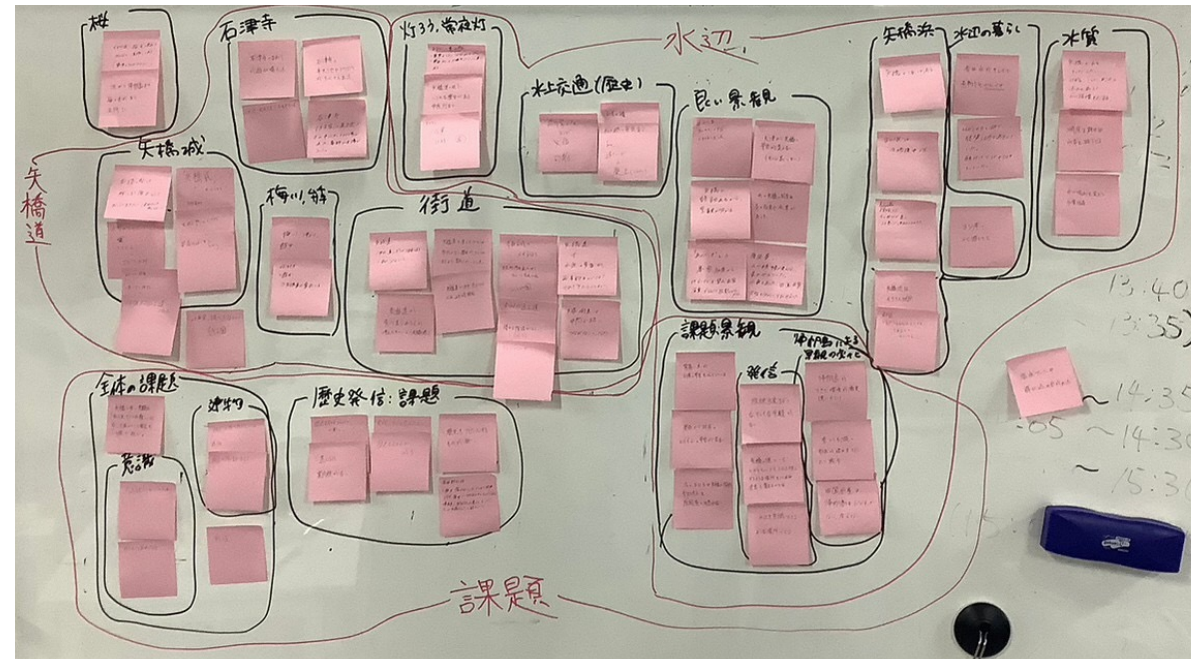
- ・ 港で記念写真が撮れるようなスポットを作る
- ・ 船の出入りで水の流れを作る
- ・ 湖底を耕し、藻を刈り取る
- ・ 背の高い木を伐採し、低い木や花に代える



2. ワークショップ結果

KJ法の実施

ワークショップの結果を用いてKJ法を実施した。住民同士の話し合いの中で図の小グループに分類でき、最終的に「矢橋道」「水辺」「課題」の三つにグループ化できた。



2. ワークショップ結果：考察

- ・「歴史」と「水辺の景観」を結びつけて、老上西を歴史を再考していく必要性

WSの結果をKJ法を用いて分類した結果、「水辺の景観」と「矢橋道を起点とした歴史」、「現状の課題」の三つに大きく分類された。水上交通を活用して矢橋道と湖をつなげることや、矢橋道から見える水辺の景観を改善することが、歴史の再考に繋がると考えられる。

- ・「水質の改善」が歴史再考の第一歩

KJ法で分類した「水辺の景観」に関して、特に水質の綺麗さが昔は素晴らしかったという意見が多くみられた。また、現状の課題としても湖上の藻やヘドロがあると意見も見られ、景観を活かして歴史を再考するためには、水質改善が求められると考えられる。

3. まとめ

成果

今回のWSでは、第一に歴史の共有を目的としており埋もれていた歴史・景観と文化について発掘することができた。また、住民間で歴史について話し合うことで歴史に関わる意識を向上させることができた。

また、住民間で歴史の保全・活用方法について話し合っていたことで、地域住民として歴史をどう扱っていききたいかの大枠をつかむことができた。

今後の課題

今回のWSでは主に、歴史の状況把握について住民の方に話し合っていた。今後はWSで見えてきた「水辺の景観」やそれに関わる歴史について住民と共に改善・活用方法を検討していく必要がある。

また、今回のWSで本質的に大事だと認識された水辺の景観は琵琶湖の綺麗な水質であることも明らかになったため、今後も調査を継続し綺麗な水質を保つために行われていた伝統的な維持管理の手法などを解明し、それらを生かす術を検討する必要があると考えられる。